

～第52回町民体育祭～

■期日 10月13日(日)
 荒天延期の場合は14日(月・体育の日)

■場所 太陽の里 町営陸上競技場

■時間 開会式：午前8時50分
 競技開始：午前10時

※今年度より野間下校区のカラーが【青白】→【白】に変更になりました。



地域おこし協力隊通信 (No. 36) マッコウクジラの座礁



今思えば、あの時〇〇〇としていけば、と思つたのは7月6日の土曜日。昨夜の深酒がようやく抜けた午後3時「昨日見たクジラが座礁した」との一報が入りました。急いで海岸に向かうと見慣れた熊野の島影に、巨大な塊が紛れるように取り残されていきました。恐る恐る近づいていくと、やはり二日酔いなのかと我が目を疑う大きさで、測ってみるとなんと17m。中種子中学校の校舎よりも高い！砂浜は推定40～50tの重みで沈みこみ、凹みに溜まった潮が陽の光を受けてキラキラと輝いています。まだ水気を含んだ皮膚は艶やかで、今にも息を吹き返しそうに見えました。

横たわるクジラを見ていると、何とか救える手立ては無かったのか？と自責の念にかがります。ですが何を思おうがクジラが海に還る事はありません。「さあ、どうするか？」目の前の現実とその後の大仕事の前に途方に暮れます。ですが、そこらが早かった！座礁場所が川向こうだったので重機が渡せませんでした。町長の陣頭指揮で川の流れを切り変えて重機を渡し、日曜日の未明に長崎から救世主が種子島へ駆けつけます。そして月曜日からの作業開始。あまりの巨体なので運ぶには切り分けなといけません。魚の様に三枚におろす訳にもいきません。深く身を切っても太い背骨が作業の行く手を阻みます。なので強烈な腐敗臭のする血肉の塊に体を潜らせ骨に切り込みを入れます。

作業を行ったのは長崎大学の大学院生の3人。20代前半の若き研究者たちがクジラに没頭しました。研究者って好きな事を追い続けられる幸せな人たちだと思っていました。だが、彼らの姿を見て私の認識が大きく違っていた事に気が付かされました。いい事ばかりじゃなく全くと向き合う覚悟。可愛いだけでペットを飼いたい、身勝手な理由で捨ててしまふような人とは大違いで、酷暑の中、彼らの目的であるサンプル採取を終えたにも関わらず、町の負担を減らすべく懸命に作業する姿にはただただ頭が下がるばかりでした。

このような経験を経て感じる事も協力隊という立場があつての事です。今回で私の投稿は最後となります。10月末を以って任期が満了します。彼らのように私が町のために胸を張って成し遂げた事をお伝え出来るような事はありませんでしたが、役回りのお蔭で関わる事が出来なかつたであろう多くの方と関わる事が出来、とても大きな財産となりました。今後もこれまで経験させていただいた知見を活かし種子島のお役に立てるよう過ごしていきたいと思っております。町民の皆さま3年間、どうも有難うございました。(松田)



本町協力隊
 第1号松田憲政さん